

team

仙台三高だより



Vol. 9 平成28年1月8日発行

仙台市宮城野区鶴ヶ谷1-19 (問い合わせ先 総務部)

電話 022(251)1246 / Fax 022(251)1247

mail: chief@sensan.myswan.ne.jp



第2学年 修学旅行実施! ~東京方面への2日間の研修~

12月3・4日の2日間にわたり、2学年の修学旅行が行われました。首都圏の企業や大学の研究室を訪問することにより視野を広げること、首都圏の大学や大学院に進学した卒業生や企業で働いているOBを招いて話を聞くことによって、卒業後の進学先の幅を広げることを目的に実施されました。

初日は上野駅に到着した後、クラス別研修を行い、午後は東京大学での大学体感プログラムを体験してきました。夕方ホテルで夕食を食べた後、卒業生を招き、文系と理系に分かれて講演を聞きました。

2日目は各班に分かれ、企業と大学を訪問しました。自分たちで行き先を決め、アポイントメントを取って研修を行うという、中学生の修学旅行とはひと味違う体験をしました。



★大学体感プログラムに参加して

○本多 杏佳 さん(2年・将監中出身)

東京大学では、体験ゼミや東大生との交流など、貴重な時間を過ごすことができました。自分で実際に参加した体験ゼミはもちろんのこと、東大生の生き生きとした様子からも、大学の学びの楽しさを感じました。交流の際に、東大生の高校時代のことを聞きました。どの方も自分で決めた勉強を習慣づけていたようです。それを特



別なことと思わない様子もまた、尊敬するところでした。この体験を今後の進路選択・勉強に役立てていきたいです。



★OB講話を聞いて

○根井 真心子 さん (2年・東向陽台中出身)

1日目にあったOB講話では、進学後の就職の話詳しく聞くことができ、自分の将来についての視野が広がりました。お二方とも強い意志と行動力を持っており、尊敬すると同時に自分たちも夢に向かって努力しようと強く思いました。一時間という短い時間ではありましたが、たくさんのことを聞いた経験は私たちの思い出になるとともに、これからの学校生活の励みになると思います。

★企業訪問をして

○佐々木 隼 さん(2年・利府西中出身)

東京の修学旅行で僕たちの班は、葛西臨海水族館と砂町水再生センターの二つの施設を訪問してきました。それぞれの施設を見学することで、そこで行われている仕事や作業内容について知ることができただけでなく、自分の将来の方針についてもう一度検討するきっかけにもなりました。その結果、将来に向けた進路選択の幅を広げることに繋がりました。この貴重な経験はとても有意義であったと強く感じています。



【クラス別研修一覧】

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1組 月島散策 | 2組 アメ横散策・湯島天神見学 |
| 3組 浅草寺見学 | 4組 お茶の水散策 |
| 5組 東京スカイツリー・ソラマチ散策 | |
| 6組 東京ドームシティ散策 | |
| 7組 浅草寺見学 | 8組 国立科学博物館見学 |

栄光の記録 ～文化部も大活躍です～

第30回全国高等学校文芸コンクールの詩部門において、本校2年生の安達実成さんが応募者2481人の中から上位6人の中に入りました。去る12月12日に国立青少年オリンピックセンターにて表彰式が行われ、参加してきました。



詩部門優秀賞

「無音がきこえる」
文芸部 安達 実成
(2年・岩沼西中出身)

【優秀賞を受賞して】

今回このような賞を受賞して大変驚いています。夏休み前に西川先生に依頼され、何のこともわからないまま締め切りが迫り、以前に書いていた詩を応募しました。11月末に受賞の連絡があるまで、何に応募したのかさえ知りませんでした。多分、全国の高校生の中で最も意識の低い応募者だったと思います。まさかこんなことになるとは、というのが率直な感想で、実感はまだありません。作品の応募にあたって最初から最後まで指導してくださった西川先生、山本先生には感謝しています。ありがとうございました。

また、第59回日本学生科学賞の県審査が行われ、応募作品34点の中から最優秀賞が決まり、高校の部で本校が上位3位を独占しました。

知事賞「魚類と細菌の共生のしくみ」(中央審査入選)

伊藤 青空(2年・富谷中出身)
青木 雄一(2年・南光台中出身)
佐々木 隼(2年・利府西中出身)

仙台市長賞「コンクリート再固化技術の開発」

岩間 公希(2年・宮教大附属中出身)

ミヤギテレビ賞「イオンクラフトの推進力向上」

萩田 泰晴(1年・八乙女中出身)

【知事賞を受賞して】

伊藤 青空さん (2年・富谷中出身)

私達は魚類と発光細菌についての研究で、知事賞を頂くことができました。この研究の始まりは一年生の頃の「発光細菌で震災時にも使える照明を作ってみよう」という単純な試みでした。

そこから興味を持ったことを調べていき、ここまで発展することができました。学会で出会った方々や三高の先生方の協力があってこの研究はここまで進んできました。



第2回SSH講演会 実施 「コンクリートの話～歴史と役割～」

12月12日(土)に東北大学工学部大学院から、久田真教授、宮本慎太郎助教授をお招きして、SSH講演会兼身近なテクノロジーが開催されました。理数科・普通科の1・2年生約20名が参加し、大学の先生の貴重な講演を聞いた後、少人数グループでの充実した実習を行うことができました。



【SSH講演会兼身近な

テクノロジーに参加して】

○岩間 公希さん(2年・宮教大附属中出身)

もし、この世界にコンクリートが存在しなかったら私たちはどのような暮らしをしていたのだろうかと考えさせられるような興味深い講演でした。講義ではコンクリートはローマ時代からあの有名なコロッセオで使用されていた事を知り、今でも現存している点に驚きでした。実習では一部の組成が変化するだけで固化する時間に差が出ることを実感しました。私自身もコンクリートの研究をしているので今回得た知識を活用したいと思います。

○菅澤 遼さん(2年・高森中出身)

私がこの講演会で一番印象に残ったことは、セメントの製造についてです。セメントは通常、粘土、石灰石、鉄さいを1450℃という高温で焼成することでできますが、他の産業が排出する産業廃棄物を原料や燃料として利用することができるのです。また、それは鉄を精製した後のカス、廃タイヤ、下水汚泥、家庭ゴミだというのでとても驚きました。さらにセメント1tを作るのに、他分野の副産物を500～600kgも有効利用できるそうです。リサイクルというより資源循環であり、セメント産業は資源循環に不可欠な産業だと思いました。また震災復興においても、がれきをセメントなどに利用するなど役立っています。とても身近なところで素晴らしいことをしていることに感動し、興味がわきました。

1月の予定



5日(火)	3年センターリハーサル(～6日)
7日(木)	全校集会 1・2年第3回校内模試 (2年～8日)
15日(金)	センター激励会
16・17日(土・日)	大学入試センター試験
17日(日)	2年センターチャレンジ(校外)
18日(月)	センター自己採点
21日(金)	2年進研模試(～22日)
22日(土)	1年進研模試